

静岡県立中央図書館だより

文化の丘

令和8年2月号
(ISSN 1345-2282)

No.379

- 1 静岡県立中央図書館
創立100周年を記念して
- 2 創立100周年記念講演
- 3 誌上 創立100周年記念
クイズラリー
- 4 学生発♪ 図書館の魅力
再発見! Vol.2



100th 静岡県立中央図書館 創立100周年を 記念して



創立100周年
静岡県立中央図書館

令和7年4月に創立100周年を迎えた静岡県立中央図書館。今年度はこれを記念して、様々な取組を行いました。100年の歴史を振り返るとともに、今後の図書館がよりよいものとなるよう決意を新たにす契機としたいと考えます。

2面 静岡県立中央図書館創立100周年記念講演



静岡県立中央図書館長(1998～2002)、静岡県教育長(2002～2006)を歴任され、その後も静岡県の図書館活動に大きな功績をあげられている鈴木氏を講師にお迎えしご講演いただきました。

当日の講演内容の一部を以下に要約して紹介します。

1 県立図書館100年の概観

20年の戦時下、80年の平和時の100年であった。

戦争の時代の図書館では、閲覧制限など図書館の自由が失われてしまった。当館の前身、静岡県立英文庫でも閲覧禁止処分や空襲などにより図書館活動が喪失した時代であった。

戦後、民主化改革により憲法や教育基本法、図書館法などの法律の支えを受けて図書館は大きく前進した。基本的人権の保障のもと「図書館の自由に関する宣言」が高らかに掲げられるに至った。

静岡県においては、こうした機運の中、「文化センター構想」が持ち上がり、本県文化の拠点として1970年に英文庫改め、静岡県立中央図書館が誕生した。

平和があってこそこの図書館であり、また図書館があることが平和に資する。



2 「県立図書館の存在意義」探究

高校教員から館長として赴任した当初、図書館に関しては全くの素人であった。司書を先生に、たくさんの蔵書を教科書に、県内市町村図書館を自分の目で見て回って図書館を学んだ。

そんな中、資料保存機能や市町村立図書館の後方支援を主たる任務とする県立図書館は二線図書館であり一線は市町村立図書館であるという役割は理解しつつも、利用されてこそこの図書館なのでは、という疑問も持っていた。

当時、図書館の低利用が資料費の削減となりさらに低利用が進むという悪循環に陥りかけていた。利用者からの厳しい御意見もあり、1.5線図書館への脱皮を目指し、県立図書館にふさわしいサービス展開を求めた改革を行った。職員に創意工夫を求め、開館時間の延長や講座開設などの実践を重ねた結果、利用実績の増加をみた。また市民による県立図書館支援ネットワークが大規模な署名活動で支援してくださったのが大きな力となった。図書館が努力すれば支援者が現れるという教訓を得たところである。

こうした成果が知事の英断を招き、資料費の大幅な増額や司書の公募制などに結実した。

3 図書館探究活動と「図書館の発見」

館長時代に県内全市町村の図書館を回った中で、特に龍山村などの図書館において、住民の生活と図書館とが密接に繋がっている例を見たのが私にとっての「図書館の発見」であった。住民に寄り添う多様な柔軟なサービス展開を行う市町村立図書館とそれを支援する県立図書館というかたちを実感した。

ドイツ、イギリスの図書館を訪問した際には職員の専門性のレベルの高さやネットワークシステムの充実に驚かされた。数百年の歴史を持つ文化の蓄積の大きさを感じた。

牧之原市の図書館建設では協議会の委員として関わった。民と官の協働で開いた二つの図書館が、市民生活の一部として定着していった変貌を目の当たりにすることができた。

4 新県立図書館を考える

新館構想は老朽化や利便性改善の対策として2000年頃からすでに始まっていた。現在立ち止まってはいるものの、ようやく25年かかって新館を作ろうとなっている。

新県立図書館に望むこととして、利用者からの願い、市町立図書館職員からの願い、県立図書館職員からの願いがアンケート結果などで寄せられており、新図書館ではこれらの願いを実現してほしい。

最後にこの講演を通して私が考えた、次の百年に向けた新県立図書館への5つの願い・存在意義を確認したい。

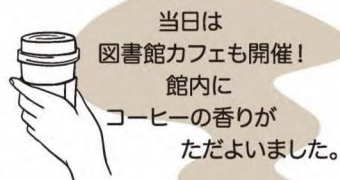
- (1) 自由や人権、多様性を尊び、平和を保障する図書館であること
- (2) 県民の学びと生活を幅広く保障する図書館であること
- (3) 県立図書館にふさわしい専門性に富んだ機能とサービスを有する図書館であること。特にデジタルとの共存や駅前の立地を生かした新たな交流・創造を図る図書館であること
- (4) 市町立図書館に対しきめ細かく柔軟に支援できる図書館であること
- (5) 公平・公正で多彩な出会いと子どもたちの未来にも配慮できる教育委員会による管理運営の図書館であること



パネルディスカッション

パネリスト	鈴木善彦氏(講師) 草谷桂子氏(トモエ文庫主宰) 勝山 高氏(静岡県読み聞かせネットワーク会長)
コーディネーター	高橋健二(静岡県立中央図書館館長)

講演の後は、「図書館 これからの100年」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネリストのそれぞれの経験から、県立図書館への思いを語っていただきました。会場に集まった参加者の皆さんからも、たくさんのご意見をいただき、図書館に対する期待の大きさが感じられる講演会となりました。(講演会の模様は、令和8年6月発行予定の「葵」60号で詳述する予定です)



当日は
図書館カフェも開催！
館内に
コーヒーの香りが
ただよいました。





創立100周年記念



誌上

静岡県立中央図書館クイズラリー

令和7年12月5日(金)から令和8年1月15日(木)まで当館で開催したクイズラリー。
館内を巡りクイズに挑戦してもらいました。その問題のいくつかを誌上で再現します。



Let's Try!



第1問

静岡県立中央図書館のキャッチコピーの空白を埋めてください。

「調べる、〇〇、解決する」

①楽しむ ②考える ③解決する



第2問

400年以上前に日本で活字の書物が作られていた!そんな貴重な「古活字版」の書物。当館が所蔵しているのは次のうちどれ?

①論語 ②草枕 ③西遊記



第4問

閲覧室の大活字本コーナー向かいにあるコーナー名の空白を埋めてください。

「〇〇医療情報コーナー」

①子育て ②健康 ③シニア



第3問

2階出入口正面にある「葵文庫」扁額
の文字を書いたのは、誰でしょうか?

①徳川家康 ②徳川吉宗
③徳川家達



第6問

当館の開館時間は通常午後5時までですが、平日の水～金曜日は少し遅くなります。午後何時まででしょうか?

①6時 ②7時 ③8時



第5問

子どもコーナー「どんぐりひろば」にある、
大きい字で書かれた本や点字のついて
いる本などをあつめたコーナーは何の棚?

①いちご ②みかん ③りんご



クイズの答え

第1問

② 写真は閲覧室入口の案内図です。当館では日本十進分類法による配架を基本とし、地域資料や雑誌のコーナーなどがあります。案内図下部には当館のポリシー「調べる・考える・解決する」の文字が。県民の探究を支える図書館を目指しています。

第2問

① 当館では江戸幕府の旧蔵書を基にした葵文庫などの貴重書を所蔵しており、これらの中からいくつかを月替わりで閲覧室入口の貴重書常設展示コーナーに展示しています。当館の所蔵する「論語」は慶長4(1599)年に刊行された貴重な木活字本です。

第3問

③ 「葵文庫」の扁額には徳川家達(いえさと)の文字が。徳川家達は江戸幕府第15代将軍徳川慶喜が江戸開城後謹慎したのち、徳川宗家16代当主となった人物。当館の前身、静岡県立葵文庫は、徳川家記念事業として徳川家や篤志家の方々からの多大な支援を得て大正14(1925)年に開設されました。

第4問

② 当館は、県民への健康医療情報の提供を目的に、平成23年から「健康医療情報コーナー」を設置しています。特集展示や出張図書館なども行って健康医療情報を届けるよう努めています。また、4類(自然科学)の書架には「がん情報コーナー」を設け、がんに関する情報を発信しています。

第5問

③ 「どんぐりひろば」はみんなが児童書に触れられる場所。定期的におはなしかも開催しています。「りんごの棚」は特別なニーズのある子どもたちを対象に、アクセシブルな資料や読書を支援する道具を備えた本棚。当館では令和7年10月からスタートしました。

第6問

② 写真は当館正面出入口。開館時間の表示には「【水・木・金曜日(休日を除く)】午前9時～午後7時」とあります。当館の出入口は2か所。正面出入口(美術館側)、1時間駐車場出入口(県立大学側)どちらからも入館できます。閉館中の返却には出入口にある返却ポストを御利用ください。



学生発

図書館の魅力 再発見!

Vol.2



静岡県立中央図書館でレファレンス体験!

静岡県立大学学生広報大使 松下 亜澄

私は今回、静岡県立中央図書館のレファレンスサービスを体験しました。レファレンスとは、調べたいテーマやキーワードを伝え、司書さんが膨大な蔵書から最適な本を探してくれるサービスです。

■レファレンス体験でアカペラの本を探す!

私はアカペラサークルに入っていることもあり、今回は「アカペラに関する本」を探していただきました。アカペラはそこまでメジャーな分野ではないので、資料はあまりないかと思っていたのですが、意外にも数冊ヒット! その中から2冊、実際に借りて読むことになりました。読んでみると、練習方法や歌い方のコツなど、実際にサークル活動で役立つようなことがたくさん書いてありました。

静岡県立中央図書館には、市立図書館には置かれていないような、より専門性のある資料が多く揃っているそうです。「こんな本もあるんだ!」という新しい発見がたくさんありました。

■本はどこから出てくる? 書庫も見学

アカペラの本は一般の棚には並んでいなかったため、司書さんが書庫から持ってきてくださいました。今回は特別に、私も書庫の中に入り、一緒に本を探す体験をさせていただきました。

書庫の扉を開けた瞬間、本がびっしり。普段立ち入ることのない場所なので、その量と迫力に圧倒されました。さらに驚いたのは、その膨大な本すべてが、きちんと番号順に整理されていること。この量を正確に管理し続けている司書さんの仕事の丁寧さに、感動しました。

借りた本も、返却するとまた同じように書庫へ戻っていくそうです。

■レファレンスは調べものの強い味方!

図書館には本が多すぎて、目的の本を自力で探すのは大変。でも、レファレンスを使えば、キーワードを伝えるだけで、自分の探しているジャンルの本をすぐに見つけてもらえます。

これから私もゼミに入り、研究で専門書を探す機会が増えると思うので、レファレンスを活用したいです。まだ利用したことがない人にこそ、ぜひ一度使ってほしいサービスだと強く感じました。



本の葵脈～静岡の知を支える物流ネットワーク～

静岡県立大学学生広報大使 藤津 咲希

私は静岡県立中央図書館が県内の市町立図書館や大学図書館などの物流拠点としての役割を果たしている様子を見学しました。普段目にすることのないところで静岡県全体の図書館を支えていることを知ることができました。このとき感じたイメージを「本の葵脈」としてイラストにしてみました。

■葵脈とは?

静岡県立中央図書館の前身である葵文庫の「葵」と葉脈を合わせた造語です。植物に栄養を届ける葉脈のように、歴史の詰まった県立図書館が静岡県内各地に知を届ける中枢となっていることを表現しました。

■本が届けられるまで

- 1 A図書館は自館にない本をB図書館にリクエスト。本がB図書館から県立図書館に届きます。(相互貸借)
- 2 C図書館は自館にない本を県立図書館へリクエスト。県立図書館で本を確保します。(協力貸出)
- 3 県内各地から集まった相互貸借と協力貸出の本を送り先ごとに仕分けします。間違えないように丁寧に仕分けた後、箱詰めして発送します。
- 4 箱詰めされた本が各地の図書館に届きます。



相互貸借や協力貸出といった仕組みにより、住む場所に関係なく、静岡県内にあるすべての本とつながっているのだと感じました。本を借りるときも、この本は静岡県内各地を巡ってきたのかもしれない思いをはせると、それだけでストーリーが出来上がりそうです。

この仕組みは、静岡県内の図書館職員の方々が本を届けたという思いを持って取り組んでいるからこそ成り立っているものだと思います。こうして当たり前にならぬ本を借りられることに感謝しながら、本にたくさん触れていきたいと改めて感じました。



学生広報大使とは

静岡県立大学の魅力を学生目線で伝えるために、2022年6月に創設されました。学生が主体となり、取材活動やSNSで学内外に静岡県立大学をアピールしています。



静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA



学生広報大使公式キャラクター
けんびよ しずちゃん